
急性期看護実習

池田 敬子 准教授
川井 美緒 講師
寒川 友起子 講師

3年次後期～4年次前期・必修

3単位・135時間

【概要・目的】

手術を受ける患者や家族が、急激な変化を生じる状況に対応し、生命の危機を乗り越え心身両面の回復や社会生活への適応に向けて主体的に取り組むための周手術期看護を実践する基礎的能力を養う。

【到達目標】

- 1) ICU や手術室、実習病棟での看護の実際を見学することで、生命の危機的状況にある患者や周手術期にある患者の状況を理解し、それに対応した援助を考えることができる。
 - 2) 患者の病態や術式を理解し、予測される患者への身体的・心理的影響を説明できる。
 - 3) 患者の麻酔や手術による侵襲、および生体反応について説明できる。
 - 4) 周手術期にある患者や家族の疾患・手術に対する認識、心理・社会的状況について説明できる。
 - 5) 周手術期に行われている検査、治療、処置の根拠を説明できる。
 - 6) 1)~5)を統合して周手術期患者の看護上の問題を明確にし、看護目標、看護計画を立案、実施、評価することができる。
 - 7) 周手術期におけるリスク・マネジメントについて説明できる。
 - 8) 保健医療チームのメンバーとしての役割を自覚し、連携・協力しながら援助できる。
 - 9) 看護職としての専門的な態度を身につけることができる。
-
-

【内容・スケジュール】

- 1) 受け持ち患者
原則として、1名の患者を受け持つ。
実習スケジュールなどの詳細については別途実習要項を配布する。
-
-

【評価】

評価の配分は、実習目標に対する到達度（60%）、実習への参加態度など（20%）、記録内容（20%）とし、総合的に評価する。

記録内容には実習記録および提出した事前課題、資料も含む

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】